

5 八幡東区

5-1 地域の概況と課題

(1) 八幡東区の概況

① まちの成り立ち、自然状況

- ・本市のほぼ中央に位置する八幡東区は、日本近代産業の先駆けとなった官営八幡製鐵所発祥の地として、我が国の重工業をリードしながら発展してきた産業地域です。
- ・区南部の皿倉山系の山裾に市街地が形成され、洞海湾臨海部の工業地、鉄道沿いの商業地、さらにその背後の住宅地が、地形に沿い带状に層をなしています。
- ・職住近接の利便性から、八幡地区の八幡製鐵所周辺に商店街が形成されるとともに、高台・斜面地にも斜面住宅地が広がりました。
- ・産業構造の転換と地域経済の低迷に対して、製鐵所施設の再編に伴い生じた東田地区の大規模工場跡地を活用し、東田土地区画整理事業が施行されました。東田地区には、情報通信などの新産業の企業誘致や、博物館や商業施設などの立地が進み、本市の新たな拠点としてまちづくりが進んでいます。企業による環境共生型住宅の立地など環境活動の中心地でもあり、世界の環境首都をリードする先進モデル地区となっています。
- ・また、区内には製鐵・石炭に関連する様々な近代化産業遺産が点在し、その一部は世界遺産に登録されています。
- ・平野地区の国際通り沿いには国際交流施設や九州国際大学、響ホールなどが立地しており、国際色豊かで文化的なまちづくりが進んでいます。

② 生活圏、交通の状況

- ・八幡東区の日常生活圏[※]は、地域拠点である八幡地区を中心として、ほぼ八幡東全域において形成されています。また、隣接する黒崎副都心や小倉都心との結びつきが強くなっています。
※日常生活圏とは、買い物・通勤・通院などで行動する範囲
- ・広域道路網としては、都市高速道路と国道3号が東西方向に走り、小倉都心地区や黒崎副都心地区等と連絡しており、県道八幡戸畑線にて戸畑地区と繋がっています。また、黒崎副都心と春の町とを結ぶ国道3号黒崎バイパスの整備を進めています。
- ・公共交通としては、JR鹿児島本線が東西方向に走っており、区内には八幡駅等の3箇所の駅があります。路線バスも中央町を中心として東西方向及び南北方向に運行されています。
- ・また、枝光地区や田代・河内地区、大蔵地区では、おでかけ交通事業による乗合タクシーの運行が行われています。

③ 人口動向・構成

- ・人口は、平成27年現在6.9万人で、全市の7.2%を占めています。
- ・平成22年から5年間の人口減少率は4.1%と門司区に次ぐ減少率となっており、平成52年には4.9万人まで減少すると予想されています。
- ・高齢化率も34.3%と門司区に次ぐ高さとなっており、平成52年には42.6%まで増加すると予想されています。
- ・可住地の人口密度は36.3人/haと、全市平均(32.5人/ha)よりも少し高くなっています。

	H22人口※	H27人口※				H27 高齢化率(%)	H27/H22	
		総数	15歳未満人口	15～64歳人口	65歳以上人口		人口増減数	人口増減率(%)
北九州市	976,846	961,286	119,448	549,397	277,120	28.8%	-15,560	-1.59
北九州市 八幡東区	71,801	68,844	7,586	37,416	23,612	34.3%	-2,957	-4.12

	面積(ha)	可住地面積(ha)	H27可住地 人口密度	H27 世帯数	H27 1世帯あたり人
北九州市	49,195	29,609	32.47	426,325	2.25
北九州市 八幡東区	3,626	1,895	36.33	31,442	2.19

	H52将来人口				
	総数	15歳未満人口	15～64歳人口	65歳以上人口	高齢化率(%)
北九州市	784,162	79,211	409,013	295,938	37.7%
北九州市 八幡東区	49,142	4,252	23,958	20,932	42.6%

※H22・H27 人口：国勢調査
 ※H52 将来人口：
 国立社会保障・人口問題研究所
 『日本の地域別将来推計人口
 (平成 25 年3月推計)』による推計値

④土地利用

- ・区南部の皿倉山系の山裾から区北部の洞海湾までの狭い平地部に市街地が形成され、区面積の約45%が市街化区域となっています。
- ・この市街化区域においては、JR鹿児島本線から北の臨海部に工業地、JR鹿児島本線南の西本町、中央町などに商業地、さらにその背後の傾斜地等において住宅地が形成され、地形に沿った層状の市街地を形成しています。
- ・八幡東区は平地部が少なく、産業が成長した時代に、高台や斜面地に斜面住宅地が広がっており、人口減少・高齢化が進行している状況にあります。
- ・東田地区や八幡駅前地区、高見地区などでは、面的な整備により土地利用の更新がなされ、多様な土地利用が行われています。一方で、中央町や祇園町などの商店街では空洞化が進行しています。
- ・区南部は、皿倉山系等の山林地で、河内貯水池や板櫃川等の水辺空間とあわせて、市街地近郊の潤いある自然環境地が形成されています。

(2)八幡東区の特性とまちづくりの課題

- 本市をリードする環境共生のまちづくりの課題
 - 東田第一高炉や官営八幡製鐵所関連施設などの近代化産業遺産や教育・文化施設、皿倉山や河内貯水池などの豊かな自然の保全・活用により、さらなる魅力あるまちづくりが必要です。
 - 世界の環境首都にふさわしい先進モデル地区として、次世代産業拠点の形成などの展開が必要です。
- 高齢社会に対応した誰もが住みやすいまちづくりの課題
 - 公共交通の主要幹線軸である八幡・東田と小倉都心や黒崎副都心、戸畑方面を結ぶ区間について、乗り継ぎ向上などの機能強化、利用促進が必要です。
 - 高齢化率が特に高いことから、人や地域のつながりを活かした安全・安心に暮らせるまちづくりが必要です。
 - 防災上、居住環境上の課題を抱える斜面地住宅については、居住のあり方について検討を進める必要があります。

5-2 まちづくりの目標と方針

(1)まちづくりの目標

八幡東区の課題を踏まえて、区の将来像を描き、まちづくりの目標を定めます。

【目標】

- ◆街なかの利便性・快適性を高め、安全・便利で全ての世代が生活しやすいまちをつくる
- ◆地域のポテンシャルを活かし、新たな産業の立地を進めるとともに、既存産業との連携を図りながら、活力を再生し続けるまちをつくる
- ◆皿倉山や近代化産業遺産などの観光資源や、教育・文化施設、国際交流施設などの質を高め、ビクターズインダストリー(集客産業)の中核として多くの人を訪れるまちをつくる
- ◆皿倉山や河内などの豊かな自然を守るとともに、街なかの水と緑を育み、環境共生のまちをつくる

(2)まちづくりの方針

まちづくりを構成する主な分野ごとに方針を定めます。

●土地利用に関する方針

街なか居住の推進に向けて、安全・便利で暮らしやすい市街地の形成を進めていきます。また、山地については豊かな自然を保全しつつ、集落の維持とレクリエーション活用を進めていきます。

- ① 街なかにおいて、商業・業務系と住居系を中心とする土地の有効利用を進めます。
- ② 周辺市街地において、長期的な観点から、街なかの取り組みと連動した斜面地住宅等のあり方について検討を進めます。
- ③ 情報通信など新産業の誘致により、低・未利用地の有効利用を図ります。
- ④ 皿倉山・河内地区において、自然環境の保全を図ります。

●交通に関する方針

日常交通と産業・観光などの物流・交流交通の円滑化や、歩いて暮らせるまちづくりに向けて、幹線道路網の整備、身近な道路の整備、公共交通の充実を進めていきます。

- ① 他区との連携強化や各拠点とのアクセス性向上に向けて、幹線道路網の整備を進めます。
- ② 歩行者や自転車の安全性や快適性を向上させるため、身近な道路の整備を進めます。
- ③ 公共交通軸を中心とした公共交通の利便性向上と利用促進を図ります。

●観光や美しい景観による魅力あるまちづくりに関する方針

近代産業の歴史など豊かな地域資源のさらなる魅力を高め守ることで、多くの人を訪れる賑わいのあるまちづくりを進めていきます。

- ① 近代化産業遺産などの歴史資源を活かした観光機能の充実を図ります。
- ② 皿倉山や河内貯水池周辺等を中心とした良好な景観資源を守り・育てます。
- ③ 国際色豊かで文化的な魅力とにぎわいのあるまちづくりを進めます。

●都市環境・自然的景観・公園緑地に関する方針

東田地区等を中心とした世界の環境首都にふさわしい先進モデル地区としてのまちづくりを進めます。

●安全・安心なまちづくりに関する方針

災害の発生を抑えるとともに、地域の強いコミュニティによって支えられる、誰もが安全・安心に暮らせるまちづくりを進めていきます。

- ① 斜面地の土砂災害などの防止に努めます。
- ② 超高齢社会を見据えたバリアフリーのまちづくりを進めます。

5-3 目標とする都市の構造

